

## ◆ 迷信に惑わされない心

年末年始の時期には年越しそばやおせち料理を口にする人も多いのではないのでしょうか。これらの料理や使われる食材にはそれぞれに込められた意味があり、昔から「縁起」を担ぐ目的でお正月に食べられてきました。

おせち料理の重箱には「めでたいことを重ねる」、黒豆には「マメに働く」、海老には「腰が曲がるまで長生きする」というように、使われる道具や食材の一つひとつに新しい年を迎えるための意味や思いが込められています。

こうした季節や人生の節目において福を招くことや、災いを避けるために行われた風習が時代の中で形を変えながら受け継がれてきました。しかし、こうした風習が根拠のない偏見を生むきっかけになってしまうものもあります。

生活の中で「大安」や「仏滅」という言葉を見たり聞いたりすることがあるのではないのでしょうか。これはその日の吉凶を示すとされる「六曜（ろくよう／りくよう）」と呼ばれるもので、先勝、友引、先負、仏滅、大安、赤口の六つからなる暦注（れきちゅう：暦に記載されている曜日などの項目）の一つです。この六曜自体に科学的根拠や良し悪しがあるわけではありません。そのため、現在では六曜の記載されていないカレンダーや手帳も販売されています。しかし、日によって避けるべき事柄や時間帯などがあるとされていることから、「こんな日に〇〇するなんて…」等の否定的な発言をしてしまう場合があります。

このような、昔からの風習や迷信を気にしすぎて相手に不快な思いをさせたり、傷つけたりすることはあってはならないことです。日本には伝統的な風習が多くありますが、ただ「昔からそうしているから」という理由で続けるのではなく、そこに込められている意味について一度考え、押しつけや誤解が生じないように引き継いでいくことで、日々の生活がより豊かになるのではないのでしょうか。